

平成29年度 病虫害発生予察情報(美濃地域) 6月予報

【 水稲 】

いもち病 (葉いもち)

箱施薬を実施していないほ場では、葉いもち初発生 (6月5半旬頃) の7~10日前に粒剤施用を行ってください。なお、補植苗はいもち病の発生源となるため、すみやかに除去をしてください。

【 カキ 】

カキノヘタムシガ (カキミガ)

今年の見取り調査によると、成虫の発蛾最盛期は5月22日 (平年 5月22日) と平年並で、発生量は1樹あたり1.6頭 (平年 2.1頭) でした。近年、発生期間が長期化しており、防除適期を逃すと被害が拡大するため注意してください。例年発生が多いほ場では、発蛾最盛期より7~14日後に1回目散布、さらに7~10日後に追加防除をしてください。

○主な病虫害の発生時期及び防除時期 (6月)

	病虫害名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項	
			1旬	2旬	3旬	4旬	5旬	6旬		
水稲	生育(コシヒカリ)								・田植 5/11(農業技術センター)	
	生育(ハツシモ)			< 田 植 え >					・田植 6/10予定(農業技術センター)	
	葉いもち	並					<初発生>		・箱施薬を実施する。	
	縞葉枯病	並					<初発生>		・ 縞葉枯病 感受性品種では、縞葉枯ウイルスを媒介するヒメトビウンカの防除を徹底する。	
	ヒメトビウンカ	並			<第1世代成虫>					
	ニカメイガ	少			<越冬世代成虫>					
	防 除 適 期			~ ■葉いもち・ヒメトビ・ニカメイガ ▲葉いもち・ヒメトビ					・ ヒメトビウンカ 箱施薬を行わなかったほ場では第1世代成虫最盛期に本田防除を行う。	
カキ	生育(富有)	並							・開花最盛期 5/22 (平年 5/21 : 農業技術センター)	
	ハマキムシ類	やや少					<第1世代幼虫>		・ ハマキムシ類 幼虫発生初期 (6月4半旬頃) の防除を徹底する。	
	カキノヘタムシガ	やや少	<第1世代幼虫>						・ カキノヘタムシガ 発蛾最盛期 5/22 (平年5/22 : 岐阜市)	
	フジコナカイガラムシ	並			< 第 1 世 代 幼 虫 >				・ フジコナカイガラムシ 虫体に薬液が到達するよう丁寧に散布を行う。	
	防 除 適 期			ハマキムシ類▲ フジコナカイガラムシ▲						
ナシ	黒星病	並					<果実発病最盛期>		・ 黒星病 発病が散見されるほ場では確実に防除を実施する。	
	防 除 適 期			黒星病 ▲ ~ ▲						
モモ	せん孔細菌病	やや少					<発病拡大期>		・ せん孔細菌病 春型枝病斑が確認される場合は摘果時までに取り除く。	
	ナシヒメシンクイ	やや少					<第1世代成虫>		・ ナシヒメシンクイ 新梢伸長期 (4月下旬~6月下旬) の防除に重点をおく(早生)。	
	防 除 適 期			▲せん孔細菌病 ナシヒメシンクイ ▲						
果樹	カメムシ類	やや少	< 越 冬 世 代 成 虫 >						・夜温が高い場合、突発的にはほ場へ飛来する恐れがあるので、注意する。	
	防 除 適 期									
茶	生育(やぶきた:池田)	並					< 二 番 摘 採 期 >		・一番茶摘採期 4/28 (平年 4/29 : 池田試験地)	
	生育(やぶきた:白川)	並					<二番摘採期>			
	岐阜 西濃	ハマキムシ類	やや少					<第1世代成虫>	・幼虫発生初期の防除を徹底する。	
		チャノホソガ	やや少					<第1世代成虫>	・ チャノホソガ 発蛾最盛期と萌芽~開葉期が合致すると被害がでるため、1~2葉期に防除を実施する。	
		防 除 適 期		チャノホソガ ▲						
	中濃	ハマキムシ類	やや少	<第1世代幼虫>						
	チャノホソガ	やや少					<第1世代成虫>			
	防 除 適 期									
野菜	コナガ	並							・同一系統薬剤の連用は避ける (薬剤抵抗性の発達)。	
	アブラムシ類	やや多							・ アブラムシ類 定植時に粒剤を施用する。	
	防 除 適 期									

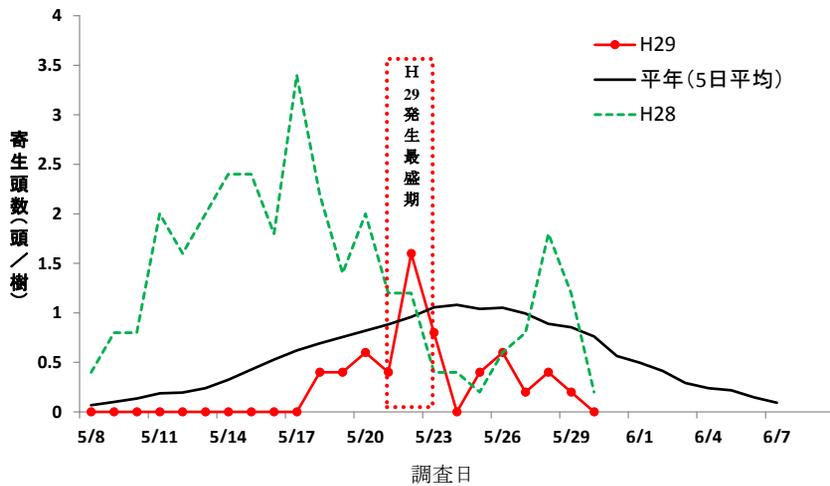
		病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期	防除上の注意事項
施設野菜	トマト	灰色かび病	少	調査ほ場では発病は認められない。曇天が続く場合は発生すると予測される。 (発病果率0.0%)	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期の防除を徹底する。 施設内が多湿とならないよう、湿度管理に注意する。特に夜間は多湿となりやすいため注意する。 葉かび病 薬剤が確実に葉裏にかかるよう丁寧に散布する。 うどんこ病 過度の乾燥は発生を助長するため、注意する。
		葉かび病	少	調査ほ場で発病が認められる。曇天が続く場合は発生量が増加すると考えられる。 (発病小葉率0.8%)	
	キュウリ	べと病	少	調査ほ場で発病が認められる。梅雨時期となるため、今後の増加に注意する。 (発病葉率0.6%)	
		褐斑病	少	調査ほ場で発病が認められない。罹病品種では今後の発生に注意する。 (発病葉率0.0%)	
		うどんこ病	少	調査ほ場で発生量の増加が認められる。引き続き発生に注意する。 (発病葉率0.5%)	

注1) ▲、▲～▲：防除適期 ■：箱施薬

注2) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注3) 用語の定義及び基準については「発生予察事業の調査実施基準」に準ずる

カキノヘタムシガ (カキミガ)



カキノヘタムシガ見取り調査 (1回目成虫)



カキノヘタムシガ (カキミガ) 成虫

カキノヘタムシガは芽付近に産卵し、孵化した幼虫は芽を食害したのち、へた部や果梗から果実内に食入します。幼虫が果実内部に食入すると薬液が届かないため、食入するまでに防除することが重要です。本年の発蛾最盛期は5月22日と平年並で、防除適期は6月上旬頃と予想されます。

なお、防除を実施する際は、[病害虫情報第2号 \(カキノヘタムシガに注意\)](#) も参考とし、確実に実施してください。

果樹カメムシ類 (主にチャバネアオカメムシ)

チャバネアオカメムシによるサクラ果実吸汁率調査 (H29)		
調査地点名	吸汁果率 (%)	
	5/中	5/下
岐阜市	26.7	60.0
池田町	46.7	成熟落果
美濃市	10.0	30.0
美濃加茂市	3.0	26.7

果樹カメムシ類は、春先、サクラなどの果実を餌として生育します。カメムシ類によるサクラ果実への吸汁率が75～80%を超えると餌として適さなくなり、果樹園などへ飛来します。

本年のサクラ果実吸汁率調査では、5月中旬および下旬調査で、指標となる75%を超えた調査地点は認められませんでした。今後、指標に達すると、果樹園へ飛来する可能性があります。

特に、風が弱く、夜温が高い薄暮時(日没後2時間位)に活動が活発となるため、園内をよく観察し、発生が認められたら防除を実施してください。

6月～8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1カ月予報 (名古屋地方気象台 5月25日発表)

向こう1カ月の気温は平年より高く、降水量は平年並、日照時間は平年並～多い見込みです。期間のはじめは、とくに気温が高い見込みです。